

パート 1

パラグラフ 1 については、詳しく説明します。

まずパラグラフを出し、訳文の後に、一文ずつについて「自分との対話」を載せます。特に、冒頭の文で苦労された方が多いと思うので、最初の文については、詳しく載せました。

Paragraph 1

Since the 1970s one of the primary symbols of our global impacts is what is happening to the world's rainforests. These forests regions, on around ten per cent of the world's land surface, play a crucial role in safeguarding the viability of the global environment. They discharge vast amounts of moisture into the atmosphere, helping to regulate climatic conditions all over the world. They are also a genetic treasure trove and an intricate web of living organisms, many of which live nowhere else. The largest remaining areas of rainforest can be found in Central Africa, South East Asia and, of course, the Amazon.

Since 1) **the 1970s** 3) **one of the primary symbols of** 2) **our global impacts** is 4) **what is happening to the world's rainforests.**

エダヒ口訳

1970 年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているものとして、まず世界の熱帯雨林の現状を挙げるのができよう。

1) **the 1970s** であって、1970 ではないことに注意！「1970 年代以降」だよな。

2) **our global impacts** 英語って、こういうふうにカンタンに言えちゃうんだよねー。でも日本語で「われわれの地球影響」じゃ、なんのこっちゃだもんねー。「地球への影響」ということだけど、内容から考えれば「地球の環境破壊」ということ。ただ、原文で「破壊」とまで言っていないので、そこまで訳で言い切るのはやめておこう。筆者があえてこの段階ではそこまで出さずに、つづく話の中で「影響とは破壊なのだ」と伝えたい場合もあるので、訳者が先回りして説明してはいけない場合もあるからね。

our というのは「われわれ」だけだとわかりにくいので、「われわれ人間」としようか。すると、「われわれ人間が地球に与えている影響」かな。「人間の地球への影響」でもいい。堅い文章なら、こちらがよいかも。でもここは導入部分なので、もう少し読みやすいように、「われわれ人間が地球に与えている影響」にしておこう。

3) **one of the primary symbols** 英語ではよくこのように **one of ~** という言い方で「これだけじゃないけどね」というニュアンス（予防的言い訳？）を出そうとするけど、「~のひとつ」と日本語にするとそのニュアンスが強出すぎることがけっこうあるので、本当にそういう断りが必要な時以外は、要工夫。ここでは「~を挙げるができる」として、言外に「それだけじゃないけどね」という意味を持たせてみよう。

the primary symbols の primary はどうでしょうか。「主な」「第一の」というニュアンスを出せないだろうか。「地球に与えている影響を象徴する代表的なもの」はどうか？でも「象徴する代表的な」では、まどろっこしいなあ。「象徴する主なもの」？これも重複していてうるさいかも。「象徴するもの」だけでもいいかな。「第一の」というニュアンスを、「まず」をあとにつけて出してもいいかも。すると「われわれ人間が地球に与えている影響を象徴しているものとして、まず」ということかな。でももうちょっと「象徴」にかかる primary のニュアンスを出したいなあ。強調の primary ということで、「まざまざと象徴している」としてみようか。「強く」「まず目につく」という感じが出るだろう。それに、「まざまざ」のようなきわめて日本語的な表現を無理のないところに入れていくことで、訳文が日本語らしくなると思う。

4) **what is happening to the world's rainforests** はどうでしょうか？そのまま考えれば「世界の熱帯雨林に何が起きているか」だけ。そうすると、この一文は、「1970年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているものとして、まず世界の熱帯雨林に何が起きているかを挙げることができる」となる。日本語として読みやすくするために、「象徴」よりも「象徴するもの」と開いて言いたくなるけど、文の前半がこれで、後半も「何が起きているか」と開いた言い方をすると、長くなって、まどろっこしい感じになるなあ。「何が起きているか」は、つまり「現状」ということだから、「世界の熱帯雨林の現状」でもいいかな。

とすると、「1970年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているものとして、まず世界の熱帯雨林の現状を挙げることができる」かな。または、前半を堅めの言い方にすると、「1970年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響の象徴として、まず世界の熱帯雨林に何が起きているかを挙げることができる」でもいい。どちらが座りがいいかな？（声に出して読んでみる）

最初のほうがよさそう。ついでに「挙げることができる」を「できよう」にしてもいいかも。「まず」はちょっとうるさいので、取ってしまおう。



「1970年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているものとして、世界の熱帯雨林の現状を挙げることができよう」となるかな。one of~のニュアンスを省いて、「われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているのが、世界の熱帯雨林の現状である」のほうがストレートでいいかなあ。

または、文の前後を入れ替えて、「世界の熱帯雨林の現状は、1970年代以降の地球環境への影響を象徴するものだ」とか「世界の熱帯雨林に何が起きているかを見れば、われわれ人間が地球に与えている影響がまざまざとわかる」でもいいかも。

このあたりの選択は、文章全体のトーンや対象の読者によって変わってくるのだけど、それはあとで再考するとして、とりあえず、次へ進もう。

These forests regions, on around ten per cent of 1) **the world's land surface**, play a 3) **crucial** role in 2) **safeguarding the viability of the global environment**.

エダヒロ訳

熱帯雨林は、世界の陸地の約一割を覆っているが、地球環境の存続を支えるうえで、とても重要な役割を担っている。

1) **the world's land surface** まず、地表の約 10%が熱帯雨林だと言っているのね。あれ、ちょっと待って！ 「地表」というのは、「地球の表面」ということじゃない？ でもここでは、**world's land surface** だから「世界の地面」ということ。地表のうち、地面（陸地）は 3 割ぐらいなので、そのうちの 10%、ということだよ。 「地表」の 1 割だったら、陸地の 3 分の 1 になっちゃう、だから違うよね。

でも、確認のため、国語辞典を引いてみよう。おや、「地表＝地球、または地面の表面」と書いてある。ということは、地面の表面という意味で「地表」を使っても間違いではないかも。……でも一般的に、「地表」というと、「地球の表面」と解釈する人がけっこういるだろうし、翻訳の鉄則「可能な限り、起こりうる誤解を避ける表現を使う」に従って、やはり「地表」はやめておこう。ということで、「世界の地面」でも「世界の陸地」でもいいけど、「世界の地面」とはあまり言わないので、ここでは「陸地」にしておこうかな。

2) **safeguarding the viability of the global environment**……またまた日本語にしにくいこと！ まず、**viability** はどうしようか。「生育力」と考えれば、「生物にとって住みよい地球環境」としてもいいかな。でも、「生物」だけの問題ではなく、「地球環境」そのものの生存可能性の意味だろうから、「地球環境が存続していけること」という意味ね。

safeguard は「守る」「保護する」という意味だけど、「支える」と訳しても同意だろう。とすると、「地球環境が存続していけるように守る（支える）」ということね。ここは少しきりっと「地球環境の存続を支える」としておこう。「地球環境を存続させる」として、存続を保証する、支えるという **safeguard** の意味を含ませてもよいかも。

この **safeguard** という言葉は、貿易などに関連する新聞記事などでも「セーフガード」とカタカナで使われることはあるけど、一般には「セーフガード」と言われても意味がわからないので、「説明しにくいからカタカナで逃げる」というのはやめること！

3) **crucial** もいろいろな訳し方ができる。「きわめて重要」「とても重要」「欠くことのできない」「必要不可欠な」などなど。「重要」を強調するのに「きわめて」を使うか、「とても」を使うかで、文のトーンが変わることに注意。文脈や相手、全体のトーンにあわせて選ぶことになる。

原文の意を汲み取って、それをわかりやすい日本語で間違いなく置き換えればよいので、他にもいろいろな訳し方ができるはず。どれを選ぶかは、全体のトーンや読者によって変わってくるので、できるだけ「ひとりブレイクストーミング」でバラエティをたくさん出しておくのがコツ。最初の一つに飛びついて満足しないこと。

They discharge vast amounts of moisture into the atmosphere, helping to regulate climatic conditions all over the world. They are also 1) **a genetic treasure trove** and 2) **an intricate web of living organisms** 3) , **many of which live nowhere else.**

エダヒ口訳

たとえば、膨大な水分を大気中に放出することで地球全体の気候を調整している。また、遺伝子の宝庫であり、網の目のように絡み合った生命体のネットワークでもある。そこにしか生息していない種もたくさん存在しているのだ。

ここ、原文にはないけど、熱帯雨林の重要な役割のいくつかを挙げているところなので、「たとえば」をつけたいところ。英語だとこうしてたたみかけることで、「例示」のニュアンスを出すことができるが、日本語だとなかなかそうならないし。

☆

1) **a genetic treasure trove** は「遺伝学的な宝庫」だけど、これではよくわからないし、つまり多種多様な遺伝子が存在している、ということなので、「遺伝子の宝庫」でよさそう。もちろん「遺伝学上の宝庫」でもいい。

2) **an intricate web of living organisms** こういう表現はよく出てくる。web は「クモの巣」という意味から「ネットワーク」や「関連し合っているもの」ということだけど、日本語では「クモの巣のように」より「網の目のように」絡み合っている、というほうが伝わる。「連鎖」もいいかも。

intricate は「入り組んだ」「複雑な」という意味だけど、「絡み合っている」でそのニュアンスは伝わるだろう。「複雑に絡み合っている」でももちろんいいけど。

living organisms に対して、私が好きでよく使う日本語は、「生きとし生けるもの」だけど、ここではちょっと粘っこくなりそうなので、さらっと「生物」か「生命体」ぐらいでいこう。

3) **, many of which live nowhere else** のところ、many of living organisms live nowhere else ということだけど、つまり「入り組んだ命の網の目があってね、その生物の多くはほかの場所にはいないものなんだよ」ということなので、[,]が organisms と many のあいだにあるのね。なので、日本語も訳し上げずに、そういう順番で。

とすると、「また、遺伝子の宝庫であり、網の目のように絡み合った生命体のネットワークでもあり、そこにしか生息していない種もたくさんある」となる。けど、ちょっとだらだらと長い感じになってしまっているの、2文に分けてみよう。「また、遺伝子の宝庫であり、網の目のように絡み合った生命体のネットワークでもある。そこにしか生息していない種もたくさんある」となる。

このほうが声を出して読んでも、読みやすいのでよさそう。でも「ネットワークでもある」「種もたくさんある」と、2つ「ある」で終わる文が続くのも単調になりそうなので、最後を「たくさん存在しているのだ」としてみよう。「のだ」という終わり方は、かなりインパクトがあるが、ここでは強調したいところだと思うので、よさそう。

1) **The largest** remaining areas of rainforest can be found in Central Africa, South East Asia 2) **and, of course**, the Amazon.

エダヒロ訳

広大な面積にわたって熱帯雨林が現存しているのは、中央アフリカや東南アジア、そしていわずもがなだがアマゾンである。

1) **The largest** となると「最も広い」「いちばん大きい」という最上級だけど、この場合、他と比べて「いちばん」と限定するというより、「世界をぐるっと見てみると、広い面積で残っているのは」といくつか挙げているのだと思うので、特に最上級として訳出しなくてもよさそう。

「現在、最も広い熱帯雨林を残す地域といえば、中央アフリカ、東南アジア、そしてアマゾンであろう」または、「現存する熱帯雨林で最大のものは、中央アフリカ、東南アジア、そしてアマゾンのものであろう」ということ。ただ、日本語で「最大のものは」と言って、いくつも列挙することはあまりないので（最大と言えはひとつだけ）、あっさり「大きな熱帯雨林が残っているのは」でいくか。「現在、広大な熱帯雨林が現存しているのは」でもいいし、「現存」を「現在、……残っている」と分けて表現してもよいだろう。

2) **and, of course** のof course はもちろん(^^);、「もちろん」とか「当然」という意味だが、「中央アフリカ、東南アジア、そしてもちろんアマゾンである」「中央アフリカ、東南アジア、そして当然アマゾンである」というのも、ちょっと座りが悪いなあ。特に「当然」というと、読み手に「アンタ、まさか知らないなんて言わないわよねえ」とちょっといばっているニュアンスが伝わらないとも限らないので、「言うまでもなく」というニュアンスが出るように、「そして言うまでもなく、アマゾンである」とか「そしていわずもがなだが、アマゾンである」という感じの方がいいかな。



エダヒロ訳

1970 年代以降、われわれ人間が地球に与えている影響をまざまざと象徴しているものとして、世界の熱帯雨林の現状を挙げることができよう。熱帯雨林は、世界の陸地の約一割を覆っているが、地球環境の存続を支えるうえで、とても重要な役割を担っている。たとえば、膨大な水分を大気中に放出することで地球全体の気候を調整している。また、遺伝子の宝庫であり、網の目のように絡み合った生命体のネットワークでもある。そこにしか生息していない種もたくさん存在しているのだ。広大な面積にわたって熱帯雨林が現存しているのは、中央アフリカや東南アジア、そしていわずもがなだがアマゾンである。